

「思い出の味」と「未来の味」

管理栄養士 斎藤 智子

横浜中里学園では朝、昼、夕の三食はもちろん、ユニット職員や心理士との調理など、様々な場面で食が関わります。個別外出では担当職員と日頃食べられない食事を楽しみます。体を作り日々健康に過ごすための食事ではありますが、はてさて、子ども達には思い出の味ってあるのかなとふと考えました。年に一度嗜好調査があり好きな料理や嫌いな料理は聞いたことがあります。思い出の味は聞いたことがありませんでした。昨年度のおすすめの料理はラーメン、カレー、ねぎとろ丼で嫌いな料理は魚料理、野菜料理でした。嫌いな料理の時でも食卓で褒められたり、楽しかったり、好きな献立でウキウキと食卓についても怒られたり、ケンカしたり、どんな味も月日が流れると懐かしく思い出の味になります。私は秋田県出身なので、冬になるときりたんぽやハタハタの味が懐かしく食べたくりますが、他にもほろ苦い思い出の味があります。小学生の頃、忙しい母に代わって夕ご飯をつくることになりました。母の料理は煮物など醤油やみそ味の茶色い料理ばかり、もっとカラフルな料理をつくりたいと思い、トマトをくりぬいて中に角切りの夏野菜を入れてサラダを作ったのです。当時の料理本のそれは、キラキラと輝いてそれはもう美味しそうに見え、チャンスがあったら食べたい、作りたいとずっと思っていました。家族にはこんな料理食べたことないとびっくりされましたが、秋田の田舎の食卓にはちぐはぐで戸惑ったことでしょう。今でも時折話題にされ、いくつになっても逃げだしたくなる気持ちになります。他にごはんのおかずになるものを作ったのか定かではありませんが、今思えば母に対するささやかな抵抗だったと思います。子ども達には横浜中里学園のごはんでもそうでなくても、今はよくわからなくても、いつか懐かしいと思える味を持ってほしいと思います。そして、まだ食べたことのない未来の味に、ゆっくりでもいいのでチャレンジして出会ってほしいと心から願います。

SPECIAL FEATURE「SARUSHOU」

04

It was a most enjoyable memory to finally be able to go to the general event that we had been waiting for.



March 27-29, 2023
横浜中里学園集合写真「泊まれる学校 さる小」より

完走した「さる小旅行」

実行委員 女子棟 山田結菜

私が入職して3年が経ちました。当時はコロナウイルスが流行り出した頃で、学園全体での旅行なんて夢のまた夢となっていました。そして我慢に我慢を重ねた今年、全体旅行が決定し私は実行委員を任命されました。学園全体での旅行は経験がなく、委員として不安や緊張でいっぱいでしたが、旅行を楽しむにしている子ども達の姿に鼓舞され頑張ることができました。旅行に行くために感染予防を徹底し始めた子、しおりを毎日のように眺めていた子、さる小に行くために職員と一緒に考え、準備を率先して行ってくれた子、そんな子ども達の姿が私たち職員の背中を押してくれていたのだと思います。惜しくも全員での旅行は叶いませんでしたが、まずは大きな怪もなく無事に帰ってくることができ、本当に良かったと心から思っています。今回、楽しく面白味がたくさん詰まった旅行ができたのは、横浜中里学園の子どもたちと職員だからこそだと感じました。棟を越えた職員、子ども同士の関わりを持ち、普段では見られない姿を見ることで改めて横浜中里学園の温かみを感じました。さる小が終わってからの園内の雰囲気は一体感があり、心地よい空気が流れています。翌月の誕生日会では、一人の高校生をきっかけに、職員に内緒で色紙を用意してくれました。横浜中里学園にとって「さる小旅行」は良い影響をもたらした新しい風を吹かせたのではないのでしょうか。そしてきっかけを作ってくれた主任と動けたこと、とても嬉しく思います。一緒に準備をしていくなかで色々な刺激を受け、学びと気づきがたくさんありました。何事もやってみること挑戦する面白さ、助け合い認め合う大切さを知る事ができました。この経験を自信に繋げ仕事に活かしていきたいと思えます。



春 入学式

今年、横浜中里学園からは小学生1名・中学生5名・高校生4名の10名の子どもが、進学しました。なかでも、目標に向かってがんばっていた4人の受験生。努力が実ってみんな志望校へ入学することができました。これからの新しい出会い、今までの出会いを大切に、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。みんな入学おめでとう！

令和5年度 入学式
小学校・中学校

夏 文体行事

卓球・野球・水泳大会出場
神奈川県児童福祉施設職員研究会

神奈川県児童福祉文化体育協会

会長：井苅 献太（今期より就任）

スポーツによる施設間の交流を通して、児童の健全な育成とともに職員の意識向上を図りたいという目的で開催しております。仲間たちと絆を築き、たくましく成長する子どもたちを見ると感動します。この場を借りて後援していただきました皆さまに感謝申し上げます。

第61回 野球大会



第58回 水泳大会

背泳ぎ 優勝
バタフライ2位

第60回 卓球大会 「子ども達の成長」

ヘッドコーチ：黒紙 徳幸

ダブルス優勝
個人戦 3位

6月4日、小田原にて第60回児童福祉施設卓球大会が行われました。横浜中里学園からは小学生女子3名、中学生男子1名、女子1名、高校生男子2名、ダブルスでエントリーをしました。卓球大会に向けて、3月以降は練習日を週1日から週4日に増やし、全員が「勝ちたい！」という目標を掲げ、勝つための練習に励みました。大会当日は、一緒に練習をしている小学校低学年の子どもや、大会に出場しない中高生も応援に来てくれました。横浜中里学園が一丸となって戦った結果、小学生女子が3位！ダブルスでは、なななんと優勝！！することができました。小学生女子から、「試合中に黒紙さんの応援が聞こえてきて、落ち着くことができ、自信がもてた。」と話してくれました。私自身、大会までとても苦しかったのですが、この一言にとっても嬉しく監督冥利に尽きました。子ども達は喜びや悔しさ、思いはそれぞれですが、個人で掲げた目標は達成したと思います。卓球を通じて、人生の中で熱中できるものや、一生懸命頑張る楽しさを感じてくれればと思っています。最後に、卓球指導に集中させてくれた職員の仲間、道具を準備して下さった事務職員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。子ども達は既に来年の大会へ向かっています。みんなで作り上げたチームの雰囲気大切に今後も卓球活動に力を注ぎたいと思います。そして、子ども達のために、沢山の卓球用シューズケースを作ってくれた、縫製ボランティアの皆さま、ご協力いただき本当にありがとうございました。

個人戦
3位入賞黒紙 高校生
ダブルス
優勝

社会福祉法人 幼年保護会 小山理事長と有馬常務にお越しいただき、令和5年度横浜中里学園辞令交付式が行われました。今年度は3名の職員が横浜中里学園へ入職しました。また、新しい取り組みとして、里親支援の充実を図ることを目的とした「里親支援専門相談員」を新たに配置し児童相談所の里親担当職員などと連携して入所児童の里親委託を推進していきます。



新職員紹介

今年度は3名の職員が入職しました

「成長」と「絆」を育む

年少棟配属 横井 和代

私が児童養護施設で働きたいと志望したのは、自分の子どもの影響です。私には2人子どもがおり、まだまだ子育て真っ最中の身です。今は中学・高校に進学し、ある程度身の回りのことはできるようになっていますが、自宅で母に見せる姿は「ぐうたら」そのものです。そのような彼らが体育大会や合唱コンクールなどで、クラスの友達と一つのことに懸命に取り組む姿を見る度、涙が溢れ出てとまりません。このようなかけがえのない経験ができるのはあと何年だろう？そう考えた時、子どもと過ごすことができる仕事に就きたいと思いました。横浜中里学園の子ども達は、自分の生活の中に入ってきた見知らぬ大人である私の名前を覚えてくれて、入職初日から「横井さん！」と呼んでくれ、話しかけてくれました。とても嬉しくて感激したことは忘れられません。3カ月という時間を共に過ごし、近づけたかな？と思ったらまだまだ、という毎日ですが、成長していくみんなの姿を想像するだけでわくわくし、楽しい気持ちでいっぱいです。



「明るい挨拶」と「健康維持」

男子棟配属 鮫島 大輝

私は、今年のテーマとして「明るい挨拶」と「健康維持」を意識し、頑張っていきたいと思っています。学生生活から社会人となり、初めての仕事は緊張や不安がありましたが、周りの先輩職員の方々の「明るい挨拶」で、日々の業務を笑顔で過ごさせていただいています。職場の明るい雰囲気作りは、職員同士が自由に意見を交わしたり、信頼関係の構築にも関わってくるので大切にしたいと思っています。「健康維持」では、常に万全の状態でも勤務できるように心がけています。そのために適度な運動や適切な生活習慣を心がけ、ジムに通ったり、ランニングをしたり、健康な身体づくりを目指し子どもにも伝えていければと思います。



「安心」できる場所

事務配属 佐伯 照子

私が学園のある青葉区に移り住んでから通算で13年ほどになります。以前、短い期間ですが障害のある子供たちと過ごす仕事に就いていたことがあり、今年の3月、娘がお世話になった学童の先生がご逝去されたことをきっかけに、再び児童福祉に関わることを考えていたところ、このたびのご縁をいただくことができ光栄に存じております。浜松出身の祖母の影響でお茶が好きなのですが、温かいお茶を飲むと一息ついてほっとするように、顔をみると気持ちがほぐれるような職員になれるよう、日々精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



みたけ台小学校・中学校との業務連絡会

小山理事長、有馬常務をはじめ今年度新しく着任されました、みたけ台小学校 谷口佐智子校長、諸先生方にもお越しいただきました。校長先生からの挨拶では、3月に発行された広報誌「丘の上便り」をご持参いただき、園長の言葉や職員と子どもの関係性をみて胸が熱くなり「横浜中里学園の子どもたちは愛されていると思いました」とのお言葉をいただきました。また、中学校の先生から見た子どもたちは「学園での生活が安定していると感じた」「少しずつ成長しようとして努力している」など、学園の職員と一緒に先生方に育てていただいていると感じました。最後に先生から、学園にあるバスケットゴールで子どもたちがバスケットを楽しんでいる姿を見て、一緒にバスケットをしたい時は行ってよろしいですか？と嬉しいお言葉をいただきました。ぜひ、お待ちしております。

5/16

みたけ台小学校との業務連絡会

6/19

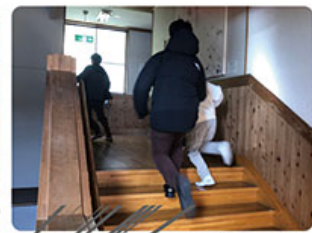
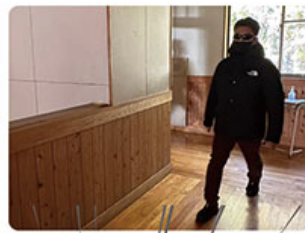
みたけ台中学校との業務連絡会



横浜中里学園内有馬ホールにて行われた業務連絡会の様子です

春 SPRING

みんなでやりたかった「逃走中！」夜ご飯の具材は自分次第
カレーライスのお具を、ハンターに捕まらないように手に入れろ！



横浜中里学園 全体行事
泊まれる学校「さる小」旅行



あれは私たちの主任…じゃない？実行委員扮する
中里レンジャーが助けに来てくれました。

選手

さる小

旅

「すごろく」&「カラオケ」大会

子どもたちがマスの内容から考えました！



「泣く子も黙る」肝試しでお札をゲットだ

2日目の夜は何かが起こる！夜の学校で肝試し…マネキンが落ちてきたり
トイレでお札をもらったり…。大泣きする子どもが続出！（職員も）



群馬県みなかみ町にある「泊まれる学校さる小」は、みんながずっと行きたかった場所。旅行が決まると、さる小実行委員会を立ち上げ、職員が一丸となり楽しい企画やサプライズを考えました。子どもたちは泣いたり笑ったり驚いたり、忙しい毎日。この絵は、園長と職員さんにお礼がしたいと高校3年生が描いてくれました。とても上手！子どもの成長が垣間見えた瞬間でした。



「逃走中」で手に入れた食材でカレーライスを食べよう

夕食の準備は栄養士さん、調理士さんと一緒に大きなお鍋でお料理！



「大運動会」で本気の闘いが始まる

元々小学校だった場所。ならば、運動場と体育館を使って子どもも大人も全員参加の運動会開催！



「けんちゃんラーメン」特別出店決定

おいしいラーメンを作りたい！と、園長が深夜まで仕込んだスープと寄付で頂いたシャキシャキのもやし。最高に美味しいラーメンでした！みんな完食！



男子棟行事

2泊3日の旅行+日帰り旅行
キャンプ&大磯ロングビーチ

ドキドキする〜
(飛び込み台)



水深5メートルのプールに飛び込み台から飛び込む子どもや浮き輪を使い、ひたすら流れるプールに身を任せる子どもなど、それぞれが思いつくりの遊び方で楽しんでいました。

年少棟行事

お天気も味方してくれた
花の国&お泊りキャンプ

ドキドキの
ターザン
楽しい〜!



曇一つない快晴の中、年少棟外出では初のマイクロバスを使ってお出かけに行きました。個人的には花より団子の幼少期だったので、子ども達がどんな反応をするか楽しみでしたが、「お花きれい！」と満面の笑みで喜ぶ姿を見て、子ども達の心も綺麗だな、と春の陽気に負けない位暖かい気持ちになりました。そして年少棟は今年夏、初めての試み！お泊り行事に挑戦！BBQにキャンプファイヤー、アスレチックと思い切り夏を満喫しました。帰って来て直ぐ、「楽しかったね、また行きたい！」と嬉しくなる一言も聞けました。

女子棟行事

今年は涼しさ優先
ボウリング大会

やった！
ボウリング大会
優勝しました



今年の夏、女子棟では、ソレイユの丘に出掛ける予定でしたが、連日つづく猛暑。これは危険だと判断し急遽計画を変更。プールにボウリング大会、夜は焼肉食べ放題、そしてホールでのお泊り会と、屋内で思いっきり遊ぶ一日を作りました。ボウリング大会の上位3名には表彰と景品も用意。ほとんどの子が、ボウリング初体験。意外なあの子が入賞したり、負けて悔しがり早くもう一回やりたいとメラメラ闘争心を燃やす子も。急遽変更しても楽しく充実した行事となりました。

諸磯ヨットオーナーズクラブ様



お天気もよく、初めてのヨットにドキドキです。いざヨットが出航すると、はしゃぐ子ども、恐がる子ども、波に揺られて寝てしまった子ども、様々でした。ヨットは、思ったよりも居心地がよく快適な海の旅となりました。今回は貴重な体験をありがとうございました。とても楽しかったです。

東洋英和女学院大学様



横浜市緑区・東洋英和女学院大学横浜校地のキャンパス内にある雑木林を散歩しながら自然と触れ合う「英和の森の自然遊び もりっこ」へ参加させていただきました。なかでもカブト虫の幼虫探しや食べれる葉っぱ探しには子どもたちは夢中でした！とても充実した体験となりました。たくさん遊んでくださりありがとうございました。

野球観戦のご招待



子ども達が楽しみにしている野球観戦！みんな野球が大好きで、とても詳しくたくさん職員に説明してくれました。ご招待いただいた日は子どもの誕生日外出と重なり、嬉しさ2倍！観戦前には、偶然にも先着でジャイアンツの帽子を頂くこともでき、誕生日に素敵な思い出を作れることができ、とても喜んでいました。

ラジオ体験



参加した感想は？

職員：初ラジオは緊張した？
 子ども：収録時はとても緊張しました！
 職員：ラジオに興味あったの？
 子ども：将来声優になりたいので声の仕事に興味を持ちました。

職員：実際に経験してどうだった？
 子ども：収録では自分で作ったCMを入れたり自分の好きなトークができたり、色々な初体験ができて楽しかったし自分の将来に向けての勉強になりました。ありがとうございました！

Thank you for your donation

「たこやき としのぶさん家の粉」 代表 岡田 尚起 様

毎年ご寄附いただいている「としのぶさん家の粉」。今年は大阪から車でお届けすると連絡があり、車を見て納得。1台のド派手な「ラジオカー」が到着。扉が開いたと同時に元気な声が！代表の岡田さんです。こども達も興味津々に車内を覗いてみると入ってみる？いいよ！と声をかけていただき人生初の車ラジオブースに潜入！その後も活動されている「こどもラジオ」についてのお話を伺っていると見事に線と線が繋がりました。将来声優を目指している高校生にとってとても良い経験ができるかもしれない！これは楽しい企画だ！早速「こどもラジオ」に参加させてもらうことになりました。



参加してくれた男の子「おそまつ君」

夏休みも1/3ほど過ぎた暑い日に、涼しい有馬ホールで地域交流事業「こどもクラフト」を開催しました。専用のシートにサクラクレパスで絵をかき、魔法の粉を振りかけてアイロンをかけると、あら不思議。世界で1つのオリジナルバッグの出来上がりです。みんな思い思いの絵を描いていて、絵の苦手な私にとっては、感心しきりでした。出来上がったバッグをどんなシーンで使うのか想像しながら、次回は何を企画しようかと考えています。何かステキなアイデアがありましたらぜひみたけ職員まで。お待ちしております。





みなさまからのきもち



横浜中里学園では、皆さまからのご寄附により充実した生活を送る事ができています。
 私たちの学園を見つけてくださり、心より感謝しております。これからも
 どうかご支援のほどよろしくお願いいたします。



寄付・寄贈（順不同）

food truck 81 様

NPO法人こどもの教育・生活支援
「アニー基金」プロジェクト 様

NPO法人じぶん未来クラブ 様

クレイン不動産流通株式会社 様

としのぶさん家の粉共同代表 様

フィリップモリスジャパン合同会社 様

あおば子どもミュージカル父母会 様

公益財団法人報知社会福祉事業団 様

児童野外活動センター こどもの杜 様

テレビ朝日福祉文化事業団 様

東洋英和女学院大学 様

諸磯ヨットオーナーズクラブ 様

ナザレ幼稚園 様

ジブラルタ生命 様

横浜幸銀信用組合 様

ほんじ里友の会 様

(株)セブン&アイ
ホールディングス 様

(株)レ・シュー 様

(株)野村商店 様

神奈川県養豚協会 様

日本理美容協会 様

(有)芝原建設 様

(株)さなえ 様

(株)創輪舎 様

柴田 和美 様

館乃雲 様

ナカムラ青果 様

太田屋精肉店 様

稲葉 晴香 様

工藤 久子 様

柴田 和美 様

安達 昌文 様

宇田 春枝 様

越智 隆浩 様

清水 泰成 様

鳥山 尚子 様

袴田 進 様

東谷 境 様

山田 亨 様

原 勝哉 様

ボランティア・支援者の皆様

ナチュラルレ・ポーノ 様

もえぎの学習支援サポーター 様

中山 芳子 様

鈴木 てい子 様

伊藤 昌子 様

檜垣 萌美 様

柴田 和美 様

笠井 佳子 様

畠山 純子 様

根崎 耕一 様

根崎 ちづる 様

土屋 美加 様

天沼 将宏 様

上村 綾子 様



原様より「とうもろこし」と「ユウガオ」を
 ご寄附いただきました！朝採れ野菜はとても
 甘くて子ども大喜び！ご馳走様でした。



Yoga
講師



ヨガボランティア 土屋 美加 様 Mika Tsuchiya

横浜中里学園へヨガボランティアとして来てくださっている土屋先生とは、今年で3年目のお付き合いになります。出会いのきっかけは「コロナ」。それまでは多忙な日々を過ごされていた土屋先生でしたが、「コロナ」という思いがけない事態に直面したことで、自分を見つめ直すきっかけになったそうです。そして出た答えが、「育った町が好きだから大好きな街を活性化させたい」との思いでした。土屋先生から横浜中里学園へご連絡をいただいた1本の電話から、ヨガ教室がスタートしました。学園としても初めての試みで、当初は長く続けられるか、土屋先生に負担をかけるか、とても不安でしたが、先生はそんな不安を吹き飛ばすエネルギーとパワーを持っていらっしゃいました。今では学園全体にヨガ教室が浸透し、子どもだけでなく職員も楽しみにしています。(マイマットを購入した職員も！)土屋先生も、中里学園の子どもと触れ合うことで、心が豊かになり学ぶ事も多いとおっしゃっていました。コロナにより出会えたこと、気付かせてくれたこと、悪いことばかりじゃないと思いました。そしてヨガが終わった後、子どもと職員とドッジボールをする土屋先生も素敵でした。これからも長いお付き合いをよろしくお願いいたします。